



福島市立清水中学校

# 道徳通信



No.4  
令和元年  
12月20日

## 「考え、議論する道徳」とは・・・

道徳が教科化されるにあたり、「考える」「議論する」という言葉がキーワードとして取り上げられています。これは、生徒が常に自己の生き方を見つめながら、みんなで多様な視点から話し合い、語り合うことを通して自己のよりよい生き方を考えていくことを重視しているからです。

以前、ある中学校で次のような道徳の授業を行った方がいらっしゃるそうです。テーマは「相互理解」や「個性の伸長」だそうです。

ドラえもんの登場人物(①のび太、②スネ夫、③ジャイアン、④しずかちゃん、⑤出来杉君)のそれぞれの性格や特徴を理解した上で、そこに『自分』を加えた6人の教室の班の座席を考えます。どういう席の配置にすると学校生活がさらに充実したものになるだろうか。

5人の性格や人間関係に加え、自分自身の特徴や希望も込めて考えることで、様々な案が出され議論に発展したそうです。ちなみに、この問いに「正解」というものはありません。

残念ながら、今年度から道徳の資料として教科書以外の資料は扱いにくくなってしまいましたが、ご家庭で、この問いに対して『議論』してみるのも面白いですね。



### 道徳の授業より

#### 1年 エルマおばあさんからの「最後の贈り物」(生命の尊さ)

最期まで看取った家族たちがいうエルマおばあさんからの「最後の贈り物」とは。

今まで家族のために働き、一生懸命に生きてきたエルマおばあさん。そんなエルマおばあさんに病魔が襲いかかります。死を迎えようとするおばあさんとそれを見守る家族を描いた文章と写真を通じて、尊厳ある生と死の在り方について考えさせ、「命を大切に生きる」ために大切なことについて、また家族との関係性について考え、生命の尊厳について考えさせる。

#### 【内容】

- ① 「生きる」ということとはどんなことか。
- ② エルマおばあさんからの「最後の贈り物」とは何か。
- ③ 「命を大切に生きる」ための大切なことは何か。



#### 【生徒の感想から】

- ・ 楽しむことが生きることではなく、感謝も大切に、やりたいことのために努力し、一度しかない人生をすばらしい人生にしたい。
- ・ あまり「生きる」ということについて考えたことがなかったけれど、今日の授業で生きることについて考えられた。何事にも挑戦し、後悔しないようにしたい。
- ・ 生んでくれた親に感謝し、周りの人々と楽しくふれあい、人生を楽しむ。後悔しないような人生にする。
- ・ 「生きる」ということが当たり前を感じているから、親がくれた最初のプレゼントを大事にし、親に感謝することが大切だと思いました。
- ・ 「生きる」というのは自ら行動して楽しく生きることだと思った。今、自分がいるのは親がたくさんの苦勞をして生んでくれたからなので、親に感謝して生きていきたい。

## 2年 許せないよね（自主、自律、自由と責任）

### インターネットの匿名の書き込みから、行動の行き違いが生じてしまう物語。

私（香織）は、千佳のボールペンがなくなったことに関して、半信半疑ながら沙弥が盗んだと言う書き込みに同調するような返信をしてしまう。その後、智美の言動に触発され千佳と沙弥の間に割って入るが、千佳が怒りを向けられ、どうしたらよいかわからなくなる。

生徒たちは、インターネット・携帯電話などの普及により、加速的に情報量が増加しています。だから、不確かな情報に惑わされず、信頼できる情報を選んで主体的に判断できる力を身に付けることが大切になってくるので、それを考えるいい教材になったと思います。



#### 【内容】

- ① 私は、なぜ、「許せないよね」と交流サイトに返信したのだろうか？
- ② 返信した後の私は、千佳と沙弥を前にして、どんなことを思ったのか？
- ③ この出来事から、私（香織）はどんなことを学んだのか？

#### 【生徒の感想から】

- ・ 事実かどうかわからない情報では、自分の気持ちは明らかにせずに、言葉に責任を持って行動する。
- ・ 責任のない返信はしないこと、あまり場の空気に飲まれずしっかりと自分の意見を言う。言葉の責任を持つ。
- ・ 自分が半信半疑なのにまわりに流されたりして、その言葉に責任を持ってないのにそんなことを言っただめだと思った。
- ・ 少しはその場の空気に合わせるのは大切だが、その情報が本当に正しいかも分からないので、ネットなどの言葉に付いて軽く信用しないことが大切だと思った。
- ・ 自分が言った言葉は変えられないから、責任をもって言わなければいけないと思った。

## 3年 命の選択（生命の尊さ）

### 「尊厳死」に対する考え方は様々です。改めて「命」の尊さを考えてみましょう！

肺にがんが見つかった祖父。祖父は病名を悟り、延命措置をしないことが望みだと、「僕」と父母に伝えます。しかし、祖父の苦しむ様子に、父母は葛藤しつつも人工呼吸器をつける選択をする。祖父の意思を尊重できなかったことに、家族は悩みます。

いろいろな立場から「尊厳死」について考えた2通の投書も手がかりに、命の尊重について考えます。



#### 【内容】

- ① どうして祖父は延命措置を望まなかったのでしょうか。
- ② 父の後姿を見つめていた僕は、どんなことを考えていたでしょう。
- ③ 「命」について考えたことをまとめましょう。

#### 【生徒の感想から】

- ・ 命は、とても尊いものだ改めて感じた。家族みんなで暮らせることが何よりも幸せなことだと思った。
- ・ 自分が祖父と同じ状況に立たされたら、延命措置を望むと思う。家族に迷惑をかけることになるが、家族は、その人がどのような状況になろうとも、生きているということにつながり、家族とは、かけがえのない、とてもありがたいものだと感じた。家族という大切な人のために、最後まで賢明に生きることが大切なのではないかと感じた。
- ・ 命というものは、とても大切なものだと感じた。家で飼っていた動物が亡くなったとき、とても悲しい気持ちになりました。家には、祖父母を含めた家族、動物がいて、また、たくさんの友達がいます。今まで以上に大切にしていこうと思いました。